

近代的な国語辞典の草分けである『①言海』（ ）は、②キノウ（ ）から完成まで16年を要した。ほぼ単独で成し遂げた③大槻文彦（ ）にとつての難問は、新しい語のうち、どれを載せ、どれを捨てるかであった。仕事を進めた明治前期は次々と新語が生まれた時代だった▼大槻の④ヒョウデン（ ）『言葉の海へ』（高田宏著）によると「自転車」「ペケ」「すばらし」などが⑤サイヨウ（ ）され「園遊会」「すてき」は見送られた。ペケの意味は「横浜居留地ニ行ハルル⑥訛語」（ ）、『⑦可』（ ）カラズ』トイフ意ヲナス」、外国との接点から広がった様子が伝わってくる▼（1）新語を選ぶ苦労は今も変わらないようだ。10年ぶりに改訂される⑧広辞苑（ ）では「安全神話」「婚活」「ちやらい」などが載ることになった。一方で「つんでれ」「ググる」は落選した。当落線上に多くの語があったのだろう▼「やばい」の説明には「のめり込みそうである」が加わった。危ないわけではなく、好ましいことが起きたときにも若者が⑨連呼（ ）するようになつて数年がたつ。感嘆詞のように使われている気がするが、さて広辞苑の解釈は定着するか▼（2）今回の改訂版で予定される発行部数は、ピーク時の10分の1にとどまるという。無料で何でも検索でき、辞書が売れない時代である。電子版の売り上げも、紙の穴埋めには遠いという。言葉の変化にあわせて改訂が続けられるのか、少し心配になる▼言「海」、大辞「林」、大辞「泉」。辞書の名には自然の広がりや深さがある。荒れずに⑩ク（ ）ちずに言葉を守り続けられるか。

「2017年10月27日「天声人語」

問一 ①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを書き入れなさい。

問二 次の意味を持つ言葉を文中から選び（ ）内に書き入れよう。

ア 庭園に飲食や余興などの設備を整え、客を招いてもてなすこと（ ）

イ ある物事を最初に行つて発展の基礎を築くこと（ ）

ウ 検索サイトでの検索を意味する動詞（ ）

エ 根拠が明確でないのに「絶対安全」と考えられていること（ ）

オ 理想の相手を見つけ、幸せな結婚をするための活動（ ）

カ 普段は無愛想な女性が、時折甘えた行動をとるさま（ ）

問三 次の意味を持つ6字の副詞を答えよう。

・女がしなをつくりながら歩くさま。はでで安っぽいさま。落ち着きがなく軽薄なさま「広辞苑 第六版」

・女性がことさらに気取るさま。浮ついた振る舞いをするなど軽薄なさま「大辞泉」  
・安手で派手な服装をしているさまや、浮ついた振る舞いをするなど軽薄なさま「大辞林 第三版」

問四 傍線部（1）を具体的に述べている部分を21字で書き抜こう。

問五 傍線部（2）の理由を30字程度で考えよう。